

つながりの学校「FLAT」スタート！

10/24、初回はスタッフを合わせると合計 33 名でスタート。つながりの学校「FLAT」は対話を中心に進めます。仲間を増やし、自分の話をして、相手との話が混ざりあい、アイデアをつくる。そして、一緒に行動まで。1年後には早くも何かが起こる。そんな予感がする熱気のあるスタートとなりました！



大切にしたい『対話』のセンス

初回は、つながりを作るうえで特に大切になってくる、「対話」を深く学びました。

特に「対話」と「討論」（信頼関係のない）の違い。

私たちは、「話し合い」の方法を小さいことから学んでいません。そのため、話し合い方法が、つい信頼関係のない討論のようになってしまいます。討論はお互いの信頼関係が前提です。しかし、信頼関係がないと、自分の話が正論で、相手の話と違う場合、つい相手を否定してしまいます。そのため、感情的なヒビが入り、意見のあう人しか話が合いません。

『対話』は、意見の「違い」を楽しみ、認め合う。

昔から町に住んでいる人、町に引っ越してきた人、通勤している人、遊びに来る人等「色々な人」が町の中で、人とつながっていくには、「対話」のセンスをもって接していくことが必要だと学びました。

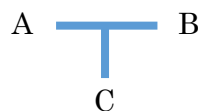
『対話』から生まれる町の変化

福津市津屋崎での対話の具体的事例をたくさん聞きました。一例として、高校生のサッカー部キャプテンから、大学生が学ぶ対話の場。立場は関係なく誰からでも学ぶことができるのが、対話のよさ。「先輩や先生＝教える側」だけというのは、思い込みがあるかもしれませんね。



☆「対話」と信頼関係のない「討論」の違い☆

「対話」	信頼関係のない「討論」
・ 耳を澄ませて聴く	・ 人の話に耳をかさない
・ 否定も断定もしない	・ 否定し、断定する
・ 答えは一つと思わない	・ 答えは一つと思いつく
・ アイデアをつなげる	・ アイデアがつかない
・ 心の変容を許す	・ 心の変容を許さない



(Cは、A'、B' もありうる)



※A、B 2つの意見があった場合、「対話」は、A、Bという異なる論理が折り合わさり、Cという概念が生まれる。両者とも変わるのだということが前提。「討論」は、AとBという論理が戦い、Aが勝てばAに従うもの。その場合、BのみAに意見が変わる。

【担当が感じたポイント】

「討論」が悪いのではなく、お互いの「信頼関係がない」ことが問題。

対話がよくて、討論が悪いということではありません。お互いの信頼関係があれば、「対話」も「討論」も大事な話し合いの手法です。しかし、信頼関係のない討論は、つい相手の否定をしてしまいます。反対に対話はお互いを認めあい信頼し合うことを促進します。そのため、今回の講座でも対話をベースに進めますし、普段の生活からも大切にしたいと感じました。



【編集・担当】
地域振興課自治振興係
渡邊 直也